

## 出題傾向と対策 国語

## 1. 入学する受験生に求めたい力(入試問題の出題意図)

共立女子第二の国語科の教科目標は、「受信力」と「発信力」を兼ね備えた高いコミュニケーション能力の育成です。入学後、この能力が大きく伸びていく素地があるかどうか、共立女子第二の入試問題はそれを問うています。したがって、普段使っている言葉に自覚的で、読み書きの基礎的な能力を備えた受験生を求めています。

## 2. 出題方針(1の出題意図を踏まえての方針)

1の出題意図に沿って、以下の(1)～(3)の項目について設問を構成しています。

- (1) 与えられた文章を読み、何について(主題)、何を(主張)、どのように(根拠)述べているかを的確に把握しているか。文章のみならず、図や表などからの読み取りも行えるか。
- (2) 与えられた文章を読み、登場人物のおかれている場面とその時の心情を的確に把握しているか。
- (3) 日本語の多様で豊かな使い方に習熟しているか、また文章を踏まえて自分自身の意見を論拠をもって書くことができるか。

## 3. 2021 年度入試の出題形式・配点

2の出題方針の(1)～(3)に対応する形で、4回入試とも大問3題で、以下の形式で出題します。

## 一、説明的文章(40点満点)

本文はやや短めで、主題について論理的に解説したものです。設問は、記号選択、抜き出し、記述などがバランスよく出題されます。昨今は別の文章や表、図など組み合わせた問いや、本文を踏まえて自分自身の意見を書く問題なども出題されることがあります。

## 二、文学的文章(40点満点)

本文はやや長めで、多くは受験生の皆さんに年齢が近い人物を主人公とした物語です。設問の構成は、基本的に大問一と同じですが、昨今は本文中の表現についての問いも出題されることがあります。

## 三、言葉に関する問題(20点満点)

漢字に関しては、読み(4点)、書き(4点)を毎年必ず出題しています。その他、自然に関する表現、熟語の構成、類義語・対義語、四字熟語、ことわざ・慣用句、ことばのきまりから3分野を選び、計20問出題しています。

## 4. 2021 年度入試を振り返って(結果分析・解説)

## ◎問いをよく読んで答えよう。

説明的文章・文学的文章ともに、根拠をもって解答するのではなく、「なんとなく」答えてしまっている答案が目立ちました。

特に正答率が低かったのは、[1回PM]一、問七 脱文の並べ替え問題でした。確かに文章の量も多く、難しい問題でしたが、B・Cに共通している「障がいをかかえる可能性」というキーワード、そしてDのはじめにある「それだけではありません」という指示語が何を指しているのかを手掛かりに解くべきところを、「なんとなく」で解いてしまったせいか、誤答もバラバラでした。脱文挿入の問題の場合、必ず根拠となる言葉がありま

す。そのようなヒントもなく出題されることは決してありません。論理的な根拠をもって問題に臨むことは、大問一に限らず、全てにおいて求められています。例えば、〔2回PM〕一、問十の問題。インターネット上だけの交流で、実際には会ったことのない人を「世間」と「社会」のどちらに分類するか、自分の意見を述べる問題なども、「世間」と「社会」という定義づけを理解した上で、自分の考えを自由に述べるものでしたが、やはり大切なのは、その考えにきちんと論拠が述べられているかどうか、でした。「なんとなく」で答えがわかってしまうのは、持ち前のセンスだとは思いますが、それだけでは少し難しい問題になったとたんに、太刀打ちできなくなってしまいます。問題には必ず客観的な根拠があるのだということを念頭に問題に取り組んでもらえれば、より高得点が取れるのではないのでしょうか。

また、〔2回AM〕二、問九 陽菜子と母親それぞれの「優先順位」について答える問題は、全体的な正答率は非常に高く、本文の内容はしっかりと読み取れていました。ただ一方で、設問にある「一語で答えなさい」という言葉を見落としてしまった人が多く、内容は合っているにもかかわらず、多くの答案が減点対象となっていました。例年の傾向ではありますが、設問に対応していない答案が多いことが非常に残念です。「ぬき出しなさい」とあるのに、自分の言葉でまとめてしまったり、「解答らんに合うかたちで」とあるのに、ぬき出す部分が少なかったりと、非常にもったいない答案が多いです。設問に対応した形で答えていなければ、どんなに内容が読み取れていたとしても、点数にはなりません。また、設問に書いてある条件は、いわば出題者からのヒントです。どうかしっかりと受け取って取り組んでほしいと思います。

### ◎漢字や言葉の知識を身につけよう。

〔1回PM〕四字熟語では、漢字の間違いが多かったです。①は「句」、③は「自」というように音ではあっているものの、設問の条件である「体の一部を表す漢字を」ではない漢字を答えてしまっているものもありました。比較的、今年度は大問三の正答率は高かったのですが、やはりより高得点を狙うためにも、意識的に言葉の勉強をしてもらえたらと思います。

思考力や判断力、表現力が求められる世の中です。もちろん本校でもそのような力を育む授業を展開していますが、やはりその前提となるのが知識や技能です。例えば四字熟語のような言葉の知識、あるいは自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために様々な言葉で言い換える技能などを入試でははかりたいと考えています。そして、そのような力をつけるためには、やはり普段から言葉に対して敏感であることが大切だと思います。どうか、いろいろな表現に触れて語彙力を増やしていきましょう。漢和辞典や国語辞典を引く習慣もつけておきましょう。

## 5. 入試準備に向けての対策（今後入試に向けてどのようなことをやっておくとよいか）

4の「2021年度入試問題を振り返って」でも挙げた三項目に沿って、日常生活の中でできる対策として以下の

(1)～(3)の対策が考えられます。

(1) 本や新聞を丁寧に読みましょう。音読や書き写しを試みるのもよいでしょう。

(2) 問題演習では設問を丁寧に読み、当日焦らないように、普段は試験より5分短い時間内で解答するようにしましょう。

(3) 言葉に関する問題の準備をしましょう。また漢字は、何度も書いて覚えることが大切です。